



10月！神戸はまだ20℃以上の日が続いていますが、葉っぱが少しずつ色づいてきました。そして、街のあちらこちらにハロウィーンの飾りが目立ってきました。そういう飾りをみて、少し気分転換になるといいですね。



Popoki's Hot News!



ポーポキのピースマップイベント

みんなが住んでいる、学んでいる、働いている町。
カメラやスケッチブックを持って、一緒に平和を探しませんか。
私たちの町は、平和？ その「平和」の色は？音は？においは？
2011.11.12 一緒に探検しましょう！（詳しくは9頁へ！）



。「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのさとしにゃんから届いた平和：

『9月に定年退職した我が父へ

やっぱり、なかなか面と向かって、労いのことばをかけることはできません。でも、僕が今日まで平和に生活できたのは、あなたが一生懸命働いてくれたおかげだと思っています。』

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

い。ポーポキのメール popokipeace@gmail.com へ！



ポーポキ友情物語専用ページに新しいスライドショー！！！！

ポーポキ友情物語 in 岩手県大槌町

ポーポキ友情物語 in 宮城

ポーポキ友情物語 in グアム

ポーポキ友情物語プロジェクトの最新作品などを見たりできる

ページがポーポキのURLにできました。ぜひ見てね！

<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html>

ポーポキ友情物語プロジェクト

あなたも周りの人と布をつくってみませんか？



詳しくはポーポキにメールへ。 Information: popokipeace@gmail.com

次のリンクで最近のプロジェクトを見ることができます。

View the most recent work of the project at:

<http://popoki.cruisejapan.com>

Length/長さ: ≤5meters(つないでいく)

We will connect the sections

Width/幅 45cm

* Hem the edges/縁かがり縫いをする

Fabric: cotton broadcloth/

素材: 綿ブロード。

Color: Very light pink, or as you like

色: 薄いピンク、又はお好きな色



出来上がった布をポーポキ・ピース・プロジェクト宛(657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1 神戸大学大学院国際協力研究科 ロニー・アレキサンダー方)へお送り下さい

Please send finished sections to: Popoki Peace Project, c/o Ronni Alexander, GSICS, Kobe University, Rokkodai, Nada-Ku, Kobe 657-8501 JAPAN

<http://popoki.cruisejapan.com>
[popokipeace \(at\) gmail \(dot\) com](mailto:popokipeace@gmail.com)

チェコに行ったポーポキ

スザナ・レンカ・ハニバロバ

今年の夏にポーポキと私は長い旅に出かけました。行先は私の母国のチェコでしたが、今回もポーポキは特別なミッションに成功しました。

3月11日、東北で大震災が起こってから半年以上経ちましたが、そのことはチェコの人々の心の中にも強く残っていました。東北の皆さんは今どうしているのでしょうか？もう普通の生活に戻ったのでしょうか？そして、半年前とても助けたいと思っても何も出来なかったチェコの人々は、これまでずっと考えていた、感じていた、伝えなかったことを、今回はポーポキの友情物語を通じて表現することができました。

ポーポキはすぐにはたくさんの友だちができて、お仕事を始めました。大切に思っていたこと、伝えたいこと、共有

したいことはひとりひとり少し違っていました。たとえば、家とお花とネコの絵を描いてくれた7歳の女の子は、こういうふうに考えていました「津波が何かよくわからないけど、チェコに時々大きな水（洪水）が来て、そのときにたくさんの家、きれいなお花、好きな場所はすべてなくなります。だから私は日本の子どもに新しいお家と咲いているお花とポーポキのようなネコを送りたい!」。また、クリスマスツリーの下にプレゼントを描いてくれた10歳の男の子は「クリスマスのときに幼な子イエス（チェコではサンタクロースではなく、幼な子イエスがプレゼントを持ってきます）は一人ひとり子どもに好きな物を届けます」。このプレゼントの中は何ですかと尋ねたら「それはその一人ひとりの東北の子どもも大人も今一番望んでいる物です」というふうに答えました。大人も伝えたい、共有したいことを絵に一生懸命描いて、チェコ語でかかれています。ちょっとした言葉…1万キロ離れても一緒ですよ、ずっとあなたのことを考えています、大好きですよ、1日も早く復興を祈っています…のメッセージをもらいました。

私も祈っています。

ポーポキ来てくれてありがとう！またチェコにいらしてくださいね＊





ポーポキの被災地支援インタビュー その6

有山智、多田茉莉絵

2011 年 10 月 20 日(木)

今回は、西井開さん(神戸大学発達科学部 以下、西)と、松山愛さん(神戸大学経済学部 以下、松)に、私多田茉莉絵(神戸大学大学院国際協力研究科 以下、多)と有山智(神戸大学大学院経済学研究科 以下、有)がインタビューをしました。西井さんと松山さんは、以前お話を聞かせていただいた有山さんと田村さん(ポーポキ通信 NO.72、被災地インタビュー その4)と同じく、神戸大学学生ボランティア支援室が実施している「神戸大学遠野ボランティアバス派遣」に参加されました。西井開さんは、「神戸大学遠野ボランティアバス派遣」第一・三次に参加され、松山さんは第三次に参加されました。第一次は4月30日(土)～5月8日(日)、第三次は8月16日(火)～8月23日(火)に行われました。

ボランティアは、岩手県遠野市を拠点にし、東日本大地震により大きな被害を受けた岩手県の上閉伊郡大槌町、陸前高田市で行われました。現地では、いくつかのグループに分かれて、仮説住宅付近でのカフェの設置、現地のボランティアセンター(被災地におけるボランティア活動の拠点。ここでは、被災地の情報やニーズを集め、ボランティアにきた人に作業を提供していたりしています。)を通してのがれき撤去などを主に行ったそうです。

今回はボランティアメンバー、また被災者の方の心の動き、つながりを垣間見ることができたような気がします。

多: 西井さん、第一次派遣と第三次派遣でボランティアの内容は違いましたか?

西: 違います。第一次派遣時は、被災者の方は避難所におられましたが、第三次派遣では多くの被災者の方が仮設住宅に移られていました。ですので、仮設住宅の近くにテントを張って、第一次派遣から行っている足湯を片隅で行いながら、カフェ活動をしました。カフェ活動とは、お茶をしながら交流を持つ場のようなものです。カフェ活動では、お茶や飲み物、トーストを出していました。この目的は被災者の方とボランティアメンバーとの交流に加えて、仮設住宅に住む方たち同士の交流です。被災者の方々のお話から、東北では、ご近所さんやコミュニティ内でのつながりがとても深かったとわかりました。仮設住宅は、さまざまな地域から人が集まってきます。隣に住んでいる人と顔を合わせてコミュニケーションが取れるような場所を用意するという目的がありました。また第三次の活動として、線路の上のがれきを拾う活動がありました。第一次と第三次の違いとして、景観の違いがあります。がれきは第一次のときと比べると多くがすでに除去されており、その跡地から雑草が生えていた景色を、第三次のボランティアでは覚えています。



カフェを行っている様子



←片付いている、草が生えている様子

多：第一次と第三次の違いとして、においなど何か身体で感じたことはありますか。

西：あまりありませんね。

多：印象に残っていることはなにですか？

西：子どもたちです。

多：どんな子どもたちでしたか？

西：小学3、4年くらいのこどもたちです。第一次

のときに避難所であった子どもたちに、第三次のとき、仮設住宅で偶然再会できたんですよ!! 子どもたちも覚えてくれていたみたいで、「メガネ〜(西井さんのあだ名)」って話しかけてくれました。子どもたちと言えば、これは第一次の時の話なのですが、ある子どもが「どこから来たん?」とボランティアに聞いてきたのです。そして僕が「神戸やで」と答えると、「神戸は津波きた?」と聞いてきます。「何にもなかったよ」と答えると、「ずるいな〜」と言ってくるのです。

多：それに対して何か答えましたか？

西：何も答えられませんでした。

多：ほかに子どもたちと接して何か感じたことはありますか？

西：プロフィールカードみたいな書いてほしいと子どもたちに頼まれて、書いていたんですが。プロフィールカードとは、名前とか好きなものなどを書くカードで、それを友達同士で書き合いつくるんです。そのカード書いているときに、子どもたちが「ほしいもの」という欄にすぐ「家」と書いていました。もうひとつ、5月の半ばに津波が来るといううわさが小学生の間であり、子どもたちが話していたのをしていたのを覚えています。

多：では被災者の方の心境は、第一次と第三次でいかがでしたか？

西：被災者の方の状態は少しずつ回復していているのではないのでしょうか。第一次派遣の際には、避難所で泣きながら話をしてくださる方もいましたが、第三次派遣では、ボランティアメンバーに対し、気をつかうような質問を投げかけてくださる方もいました。また「これをしてほしい」などのニーズをボランティアメンバーに具体的に言うようになった気がします。

有：では被災者の方々は外から来た人に対してどう感じていたのでしょうか。

西：(自分達の気持は)わかるわけがないとは思われてはいたでしょうね。でも、拒絶されているとは思いませんでした。それはむしろこっちが学生だからということで、いろいろ気軽に話してくれたと思います。でも、接し方としては気を使われるのに慣れている、「ありがとう」と言うのにも慣れすぎている、というような印象もうけました。

多：反対にボランティアメンバーのモチベーションは第一次と第三次と何か違いはありますか？

西：はい、あります。第三次の派遣では比較的ボランティアメンバーにも余裕があったのではないのでしょうか。第一次派遣では、暗い空気がボランティアメンバーにも漂っていましたが、第三次派遣ではボランティアメンバー間で恋バナをするなど、リラックスした空気が流れていたこともありました。

多:「神戸大学遠野ボランティアバス派遣」第三次に行かれた松山さんに質問です。ボランティア活動として何をなさったのでしょうか。

松: 足湯と、がれきなどをひろい集める作業を主にしました。

多: 足湯はどこでなさっていたのですか?

松: 陸前高田市では、多くの方が仮設住宅に移っておられたため、そこで行いました。

多: 現地に実際に降り立ったときに何か感じましたか?

松: テレビで報道されていた光景と同じものが見えました。しかし、がれき除去を行う際には、「ここに誰かが住んでいらっしやっただのだな」と身近に感じたことがありました。倒壊した家のがれきの中から、おもちゃが見えたときには、「小さい子がいたのかな」や、夏目漱石の本が見えたときには、「年配の方が住んでいたのかな」と感じました。

多: ほかに何か現地の方と関わったことはありましたか?

松: 地元の方とお話をする機会は何度かあるのですが、一つおじいちゃんのお話があります。カフェの呼びかけで仮設住宅を回っていると、あるおじいちゃんに出会い、話をしているうちにとんぼの模型を作っているという話を聞き、おじいちゃんが突然「家に来る?」と言ってくれたのです。そしておじいちゃんの家にならせていただき、なぜ今とんぼの模型を作っているのかを教えてくださいました。おじいちゃんは今回の震災で親友を失い、とんぼの作り方はその親友から教えてもらったそうです。とんぼは親友を弔うために作っているのです。でも震災後は、毎晩おじいちゃんの夢にその親友が出てきて、「とんぼを作してほしい」と言ったり「作ってくれてありがとう」と言ったりするそうです。そのまま一時間くらいおじいちゃんとお話をしました。こういうように、地元の方と話して気がつけば時間が結構たっていることもありました。



いろいろある仮設住宅のデザイン

多: 何か被災者の方からニーズやほしいものに対することを聞いたことはありますか?

松: 生活必需品ではないけれども、それ以外のものに対してほしいものが手に入らないと言っていた方はおられました。たとえば、「テレビはあるけれども、録画するものがない」や、縫物の毛糸、読みたい本、などそれがないと生活できないことはないのですが、趣味に近いものがないとおっしゃっていた方もいました。さっきのおじいちゃんなんかはトンボを作る材料がないって言うておられましたね。

多: 被災者の方の心境として、ボランティアへの接し方について何か感じたことはありますか?

松: 予想していたよりは元気に見えました。でも、自然に元気にしているというよりは、一旦仕切り直しをした上で明るく元気に出発をはかろうという感じで。

有: その「元気」という姿勢には、はなにか意味があるのでしょうか?

松: なんか弱音を吐けない、といった印象を受けました。でも、強がることができるだけ被災者の方の中にも、「余裕が出てきたのかな」とも思いました。

多: インタビューをする中で、私たちと同じくらいの年代の方の話が出てこないのですが、20代や30代の方はいないのでしょうか。

松: 20 代の方と会う機会がなかったのは、それらの方々はカフェや足湯などに、あまり顔を出さないからだと思います。

多: それ以外の方はどのようなことをしているのでしょうか？

松: 全体的にいいますと、もともと職が多くない地域で災害が起こったため、なかなか復興が進まないのです。そのため困っている人が多いです。たとえば、被災地では長年漁業に従事している方々の話をよく耳にします。津波で船も含め仕事に必要なものが流され、そして自身もこの海で長く生きてきたためほかの仕事に今さら就く気もないし、この暮らしている土地を離れる気もない、などという話は聞きました。

インタビューの西井さん、松山さん、本当にありがとうございました。



マレーシアで子どもたちとポーポキを楽しむ

浦井加奈

マレーシアにあるパハン州にクアラリピスという人口 8 万 7 千人程度の小さな町があります。私は現在、このクアラリピスの福祉事務所で JICA 青年海外協力隊員として、障害者支援をしています。

マレーシアは多民族国家。国全体としては 6 割のマレー人、3 割の中華系、1 割のインド系と

その他に先住民族の人々も住んでいます。クアラリピスもこれらの様々な民族の人々が住む町です。町と言っても中心部にスーパーがあって、商店があって、食べ物屋さんがある、その程度で、あとはヤシの木が生い茂る森がクアラリピスの大部分を占めています。

こちらの福祉事務所でも日本の福祉事務所と同じように、障害者、高齢者、児童、貧困層にある人々などへの支援を行っています。今は雨季のため洪水がここ、そこで発生するため、洪水被災者への援助もこの事務所から行われています。

そんな中、私は障害者の部門で活動しています。私の活動の中心は、①PDK と呼ばれる障害者の人々が集まるセンターに訪問し、アクティビティーや作業内容をセンタースタッフと一緒につく



ったり、センター利用者への個別の支援を進める。②障害のある人たちの就労支援を進める。といったことです。

さて、先日、障害のある子どもたちが集まるセンターで、ポーポキピースブックのマレー語読み聞かせをしました。読んだのはピース・ブック1の最初の方だけですが、大きなポーポキに登場してもらい、色とりどりのしっぽやポーポキの作る音を一緒に楽しみました。子どもたちはMeoonggg(みやおおお〜ん)という鳴き声が大好き！最後にそれぞれ好きな色のパステルカラーを手に取り、大きなポーポキに色づけをしました。いつもはいたずら好きの子どもたちも、一生懸命耳を傾けてくれたのが印象的な、素敵な時間を過ごすことができました。



マレー語でのあいさつの始まりいつも”Selamat”から。これは「安全・無事」といった意味があります。きっと心の落ち着ける平和な時を求めているのかな、と思います。これからも機会を見つければ、ここマレーシアでもポーポキに登場してもらいたいと思います。

(おまけ)

蝋で絵を描く「バティック」でポーポキを描きました。マレーシアの田舎の村の中で走っている様子です。



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 41

今月のポガのテーマは足とひざです！少しでも楽になるといい！



1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
2. さて、仰向けになりましょう。右ひざを曲げて、三角をつくり、左足としっぽをあげます。そして、足首としっぽを右へまわして、そして左へまわして…。
3. では、足を入れ替えましょう。
4. 最後に両足もしっぽもあげて、右へ、左へと回しましょう。
5. できた！できた！できたポーズをどうぞ！

第41回目のポガ・レッスンはこれで終わります。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会 2011.11.3(木・祭) 兵庫医療大学 地域連携室 16:00～

10.23 ポーポキ友情物語活動 at 神戸 YMCA 三宮会館バザー 9:00-14:00

10.29 ポーポキ友情物語 at 神戸大学ホームカミングディー (神戸大学)

10.30 ポーポキ友情物語 at 人権研究所総会 (城崎)

11.3 ピース・マップ下見(2) 集合：神戸市交通ポートライナー
ポートターミナル駅 12:50 ←駅を変更しました！

11.12 13:00-16:00 「ピース&ヘルス・マップ」兵庫医療大学 (神戸・
ポートアイランド) ¥500. 要予約。問合せ先：兵庫医療大学 地域連携
実践センター、電話 080-6204-8793 (受付時間：平日9時半～16時)

11.26 YMCA と一緒に「ポーポキのミニ平和映画祭」 神戸 YMCA
(10:00-14:00 予定)



ポーポキ in メディア

ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- K. Wada. "Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?" *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. "The Art of Healing"(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) "The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの (連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 'Heart Lines' 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- "Human Rights, Popoki and Bare Life." *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに…」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」 奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って…考える絵本」 朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて~人間と、ねこと、そして自分と~」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介していただきました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10 面
- 「社説 終戦の日」神戸新聞 2008. 8. 15
- 中国新聞「核廃絶への視点」2008. 7. 27 (核抑止論について…。3時間!?!にわたる取材で一生懸命にポーポキのことを話したのに…。





私にとってのホーホキ



貞弘あずみ



私が初めて、ポーポキの会に出たのは、今年4月のイチゴ狩りでした。楽しかったのですが、その時は、あまりポー会のことが分かっていず、単にイチゴを食べただけの食いしん坊な、ポー会参加でした。次にポー会に参加したのは、子どもの里への訪問でした。その時の準備で、初めてポーポキに出会いました。「平和って何色？」その問いかけを聞いた時、私は「それは答えが出ない。」という違和感と共に、「その問いかけはとっても可愛いな。」という気持ちがしました。本当に、猫や子どもが言いそうな、平和という壮大な理想に、ちょっと爪をひっかくような問いだという気がしました。

平和って何色なんでしょう。なかなか答えが出ませんが、「外側の環境でなく、心の平和が平和である。」という一つの答えを、私自身は思っています。その色が何色なのかは答えられませんが・・・。

東日本大震災を機に、「本当の意味で豊かな社会」への価値観の転換が求められています。物質的には豊かでも、恐ろしい原発に依存した社会、有限なエネルギーを无尽蔵に消費する社会、どんなにネットワークが発達しても、人と人とのつながりが欠落した社会に、皆が疑問を持っています。まさに今、みんなが「本当の平和ってなに？」と思っているのではないのでしょうか？

「平和って何色？」その可愛い問いをみんなで考えて、答えを出していく時だと思えます。



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10ヵ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なされたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一円 1500 円 何円でも結構です。

